

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000111		
法人名	医療法人社団六心会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県神戸市北区道場町日下部1853番地		
自己評価作成日	平成26年11月9日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2、ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成26年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.訪問看護ステーションと連携し、日々の体調の相談など、早期の対応を図り、安定した施設生活を続けられるように対応しています。</p> <p>2.全体でのレクリエーションや個別でのレクリエーション等織り交ぜて、笑顔が多く見られりように家族や地域の力を借りながら行っています。</p> <p>3.困っている事、悩んでいる事等を一人で考え込まずに職員全員の課題としてとらえてチームケアを勧めていく様に心掛けています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の基本理念の下にある行動指針、六心(素直、感謝、互譲、反省、奉仕、謙虚)の訓を考えて介護を行っている。秋の開設3周年記念行事を冬期に行う餅つきと一体化して地域の方も参加している。入居者一人ひとりの思いや意向を「気付きメモ」に記入し、日々のカンファレンスや全体会議で検討し介護計画に反映させている。今年の新しい試みとして、本人との会話や家族の話を聞き「行ってみたい！連れて行きたい！」というキャッチフレーズで外出支援を行なった。自宅に帰り親戚が集合して食事会をしたり、家族と水入らずで外食に出かけたりして個別に楽しむ機会が得られた。安心して楽しんで暮らしていく工夫と、重度化した場合でも本人、家族、医師、職員との話し合いで納得した最後が迎えられるように対応している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関：CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の名札の裏側に基本理念と職員行動指針の用紙を入れており、常に意識して仕事をするように指導している。全体会議では職員に基本理念確認している。新入職員には初めに基本理念・方針・職員行動指針について説明している。	全体会議(月1回)には、理念を一人ひとり声を出して確認する。基本理念、基本方針の下に創られた職員行動指針である「六心の訓」を名札の裏に記し、日々のサービスの提供場面を振り返り、行動指針がケアに反映しているかを確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様秋祭り&バザーや餅つき大会、そうめん流し等の施設行事に、地域の方に案内を出し、お越しいただいている。地域の文化祭に作品を出し、参加し、短期大学の実習生やトライやるウィークの受け入れも行っている。	職員の提案により、冬季に行っていた餅つき大会を、創立記念日、バザーや秋祭り等と一体化して楽しむことにした。寒い時期よりも地域の方々の参加者も多く、「来てもらう交流」として成功した。祭りは、「昔懐かしいお祭り風景」をテーマとした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターのステッカーは引き続き玄関に貼付している。近隣の方が来所され認知症の方の相談に来られる事があり対応したり、電話での相談もある。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず運営推進会議を行なっている。運営推進会議の報告は全体会議で職員に伝え、ご意見は業務に取り入れる様にしている	会議には複数のご家族、民生委員、自治会長、あんしんすこやかセンター、知見を有する者が必ず参加する。食事レク、外出レク等の生活状況やヒヤリハットの内容にいたるまで話し合い詳細に記述している。この記録は受付にあり、家族は自由に閲覧、もって帰ることも出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度からグループホーム連絡会が発足され参加しており、運営推進会議や施設部会などの時にも事業所の状況を伝えたり相談するようになっている。	あんしんすこやかセンターの職員は運営推進会議のメンバーである。グループホームの北神部会には市職員の同席があり、会議を通じて市町村との交流や情報入手が出来る。大雨による床下浸水の近隣の住宅もあり市町村との繋がりを強くしている。	

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で計画的に身体拘束の研修を行なっている。外部研修にも参加している。行動制限等身体拘束に該当する行為についても説明している。今年度は外部の講師を招いて、2回シリーズの研修を行っている。外部研修にも参加している。玄関は自由に出入りできるようにしており、エレベーターは安全の為テンキーにて操作しているが、利用者の希望時にはその都度職員が付き添い外出し身体拘束をしない事に努めている。	行動制限をしてはいけない身体拘束について外部の講師による勉強会を実施した。帰宅願望等により外出しそうな様子を察知したら、決して止めるのではなく、さりげなく声をかけ一緒についていくなど、安全面に留意して自由な暮らしが出来るように支えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	今年度は外部の講師を招いて2回シリーズの研修を行っている。外部研修にも参加している。日々のカンファレンスか月1回の全体会議でケア会議を行い不適切ケアがないように話し合っている。働きやすい職場づくりに努めている。	不適切ケアについての事業所内勉強会では、職員間で生活支援の上で気になることを出し合い実践例で学んでいる。食事が進まない方に声掛けするとき、臥床時の声掛けなど、暴言にならないように気を付けている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外の研修に参加し、全体会議で研修内容を報告している。ご家族様からの相談にも応じている。	1名の利用者が成年後見制度を利用している。専門家が定期的に事業所に訪れているが、職員は特に陪席はせず個人の課題として取扱っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳しく説明を行い、不安なことやわからないことがないかをお聞きし質問に対して詳しく説明している。改定時や追加事項がある場合には、説明文書をお渡しして理解・納得していただいた上で同意書をいただいている。	母体が医療法人であることから医療連携体制の説明の中で、事業所のケアについての方針、看取りの考え方等も家族の意見を聴きながら説明している。家族への負担感が軽減できるように心がけるとともに家族に何を協力してもらいたいのかも説明するようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話をした際等には必ず何かご意見・ご要望等がないかお聞きし、忌憚のないご意見を話せるように心がけている。サービス担当者会議では、ケアプラン以外のご要望もお聞きし反映するようにしている。	家族会は無いが運営推進会議に参加する家族は自由に意見を述べ、事業所側も課題については丁寧に説明するようにしている。	運営推進会議には複数家族が参加していますが、参加者は固定化しているようです。出来るだけ多くの家族が参加できるように工夫をされたら如何でしょうか。

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員等各種委員会で、職員の意見を取り入れ安全で効率のよい業務へと反映している。ユニット会議及び全体会議でも意見を聴き、取り入れている。	事業所内の委員会には、業務改善、事故対策、給食、レク、感染、ケアプラン委員会等がある。各委員会には職員が掛持ちで参加している。提案者と管理者とが話し合い全体会議でその提案の結果を発表している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、随時個人面談をするようにしている。管理者が日々の勤務状況を把握し職員一人一人の個性を活かせるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は職員全員を対象とし、施設外研修は、研修内容により受講する必要性が高い職員に参加してもらっている。施設外で受講してきた研修報告を全体会議で報告する機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会や北神ケアネットワーク連絡会・グループホーム連絡会等へ出席し意見交換等を行ない、参考になる事があれば持ち帰って、業務に生かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに事前訪問を行いご本人様と面談を行なっている。面談の中でご本人様の思いや不安に思っていることなどをお聞きし、安心していただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の電話や見学時等からご家族様の話を傾聴しご家族様の現状や要望を把握し、安心していただけるよう信頼関係が築けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の意向を踏まえ、アセスメントの内容も含めて今何が一番必要かを見極め、他のサービスの利用も含めて検討し支援している。		

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれが出来ることや得意なことをお手伝いしていただいたり(調理・洗濯・掃除等)、利用者様同士が声をかけあって協力されたりと暮らしを共にする者同士の関係を築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を日々お伝えし、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族と共に支えていく関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「行ってみたい！連れて行きたい！」ではご家族の提案で自宅での食事会に利用者様も参加し、食事の介助を職員がしたり、近くに会社や自宅がある方は、時々散歩途中に立ち寄りたりと関係が途切れないように努めている。	たまに帰宅する自宅での食事会には家族や親せきの方々、馴染みの旧友も集まり楽しいひと時を過ごした。近隣の喫茶店は馴染みであり、ゆっくりとコーヒーを飲む方もいる。近隣に住む会社経営者であった利用者は、散歩の途中に立ち寄り後継者である息子たちと歓談をする。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特質をよく知り、利用者同士のトラブルの回避を行い、より良い関係が築けるような、また同じフロアで生活する一員として仲間作りが出来る様な支援に努めている。将棋や囲碁等趣味のあうご利用者様同士が関われるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も施設行事の案内や時々お電話も入れさせてもらい、ご家族様からの相談にも応じ、支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントや面接調査表によりご本人やご家族の意向を把握するように努めている。入居後はケアプランを基に居室担当の職員が中心となりカンファレンスやユニット会議でその都度検討するように努めている。	入居者のこれまでの暮らしぶりや家庭での状況などを家族や関係者から情報を得ると共に、日々の関わりの中で把握するように努めている。「気付きメモ」に心身の変化などを記入し、ケアに繋がるよう全職員でカンファレンスを行っている。	

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接調査表をご家族に記入していただきご本人の生活史を把握するように努めている。またご本人・ご家族より話を伺い経過等の把握もするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中でケアプランを実行する担当を決めて実施しているが、利用者様一人一人の心身の状態の変化などあれば、日勤リーダーへ伝え、夜勤者へ申し送ることで職員間で情報を共有するようにしている。月に1回ユニット会議で問題点等のカンファレンス行なっている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	機会あるごとに利用者の様子を家族様に伝えご意見ご希望を聞き取り、往診時や訪看に体調を伝えて状態を確認している。フロアでのカンファレンスや気付きメモ等使い問題点や改善点を共有し、介護計画に反映している。月1回のモニタリングを行っている。	月1回ユニット別カンファレンスと全体会議で話し合い、モニタリングしている。プランの変更がある場合は本人、家族の希望を聞き、関係者と検討して現状に応じたプランの作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき日々の実践の記録を残し、日常でない状態や、継続的に観察する事は、特記に残し共有し、カンファレンスを行い、モニタリングし介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に小規模多機能型居宅介護の利用を勧めたり、状況に応じて他施設の検討等柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園児や中学生とのふれあいの機会を設けたり、地域の催事に利用者様と参加している。		

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関：CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と週1回の歯科往診及び週1回の口腔ケアを行なっている。往診時以外にも早期に適切な医療が受けられるよう受診を行うようにしている。泌尿器等専門的な疾患に関しても受診介助を行う支援をしている。	かかりつけ医の受診や専門的な疾患の受診は、家族付き添いとなっているが、同行し情報提供している。主に協力医療機関の恒生病院から担当医二人が往診しており情報のやりとりを通して関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と医療連携を行い、体調管理や受診の支援を行なっている。状態変化や気になることがあれば管理者及び訪問看護師に報告・相談する体制ができている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し管理者及び計画作成担当者が主となり病院と連携をとっている。入院中及び退院時には、管理者及び計画作成担当者で病院に訪問しサービス担当者会議を開催し退院後の方針を検討するようにしている。	入院時には家族と相談し、医療機関に本人の情報を提供し、普段の状況や特徴などを伝えている。なるべく早く退院できるよう回復状況を聞き退院支援に結びつけている。入院を継続してリハビリさせたいと家族から要望されたが、担当者会議で話し合い、早期の退院ができた方もある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重要事項説明書をもとに重度化した場合の対応について説明させてもらっている。入居後は状態の変化に応じてその都度ご家族と話し合い、意向を確認している。終末期になれば、主治医、訪問看護の方にも同席してもらい話し合いを行っている。	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」の説明を行い、同意書を作成している。終末期の対応開始後もその都度本人や家族と医師、看護師、職員などと話し合い意思確認しながら看取り介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修で急変時の対応について行なっている。緊急時マニュアルや症状別の観察・対応についても各ユニットにファイルがあり日々勉強するよう指導している。実際の利用者様の状態に応じて必要性のある緊急時の対応について全体会議で研修している。その都度個別で指導もしている。		

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関：CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行なっている。施設内設備の理解や消火器の使い方の実践も行なっている。地域の集会所での避難訓練にも参加し、集会所使用時の様子を確認している。火災に限らず地震や水害等が発生した場合に地域の方々に協力していただけるよう自治会長及び民生委員の方には協力依頼をしている。	消防署の協力を得て、今年に入居者2名が参加して消防訓練、避難誘導を行い、もしもの時に慌てないように全職員が真剣に取り組んだ。備蓄は水やおむつを3日分用意し、食料は母体の病院で保管している。	突然の大雨や災害が多くなっています。地域に応じた具体的な想定が必要となります。日頃から地域住民や関連機関との連携を大切にし、運営推進会議に参加している自治会、民生委員、家族、近隣の方々にも訓練に参加協力を依頼して、支援体制を整備されることを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴の情報を職員間で共有し、その人となりを理解し尊重して対応する様にしている。基本方針にも掲げている様にお一人お一人の誇りを損ねないように排泄の声掛けもさりげなく行うようにしている。	今年度の目標達成計画に掲げている。研修にも力を入れて「不適切ケアについて」のDVDを見てグループワークを行った。一人ひとりの尊厳を大切にし、職員がどのような対応をしているか「気付きノート」に記入して検討会をしている。さりげない言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人のわかりやすい言葉や表現で話しかけて、その時々思いを表出出来る様に心掛け希望に添うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に様子を見ながら声掛けや促しを行い無理強いすることなく体調に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理美容の方に来てもらいご希望される方に利用してもらっている。外出する際は外出することを説明し、服装を整えたり、衣服を選ぶお手伝いをして、気分を変えて外出できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクやおやつレクを行い一緒に食事を作る機会を設け、一人一人の出来る事で参加して頂き、自分達で作った物をみんなで食べる事の喜びを味わっていただいている。買物に行き自分達で選んだりする機会も設けている。日々の食事時も一緒に準備をしたり片付けをしている。食事は職員も一緒に食べている。個別で食べたいものをお聞きし、外食レクも行なっている。	業者からチルドされたものが届けられている。温めて盛りつけや配膳はできる方には手伝ってもらっている。ご飯は各フロアで炊いている。レクレーションとして食事作りとおやつ作りを月に1回ずつ計画して、買い物や調理も一緒に楽しんでいる。	食事は生活の中での大切な時間です。見守りや支えがあれば入居者の力を発揮できることが多々あると思われます。季節の食材を見て触ったり、調理の音や匂いがすることで食欲もでるでしょう。更に取り組まれることを望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体機能に応じた食事形態を選び、きちんと栄養が摂れるように、また誤嚥等ないように提供している。一日の摂取量を記録して一人一人の状態を把握してそれぞれに必要な支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う支援をしている。義歯の方は毎日就寝時に義歯洗浄剤につけている。希望者の方には週1回訪問歯科医の往診と週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けてもらっている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でお一人お一人の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を行っている。夜間も本人の意志や様子を見てトイレでの排泄を促している車椅子の方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄している。昼も夜、個別で支援している。	日中は一人ひとりのサインを把握して、さりげない言葉掛けでトイレでの排泄を支援している。夜間も排泄チェック表を使用し時間を見計らって介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェック表を記入し排便の有無やペースを確認し、水分の促し、運動、マッサージ等を行い、それでも改善されない場合は主治医の指示で緩下剤を使用し、気持ちよく過ごして頂けるように支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は予定させていただいているが、お一人お一人の希望をお聞きし、時間をずらしたり明日に延ばしたりなどして臨機応変に対応している。毎日シャワー浴を希望される方には対応している。汗をかいたりしたらおすすめて意向を聴いている。	おおむね週に2回の入浴日を予定しているが、無理のないようにその日の体調や気分を大切に声をかけている。入浴中はゆっくりと話を聞き、安心してくつろいだ時間になるよう気をつけている。	

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活のリズムを観察しながら寝たい時は寝ていただき、照明や冷暖房等のご希望をきき、様子を見て加減している。安心して休息できるように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は訪看が行なっている。服薬の準備、与薬はその日の担当を決め責任をもって支援している。服薬のサインもするようにしている。薬の情報は処方時にケース記録へ挟んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や趣味を把握し、好きな事や興味ある事を職員と一緒にしたりしている。又将棋ボランティアの訪問等あり行っている。調理や掃除・洗濯たたみ等個別で促して役割をもって継続的に行なっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の様子や希望に沿って散歩や玄関前の園芸の観察、外気浴など屋外へ出る支援をしている。利用者様の希望をお聞きし個別での外出レクや食事レクや買物も行なっている。	日頃の入居者との会話や家族からの希望を聞き「行ってみたい！連れて行きたい！」という新しい取り組みをスタートした。自宅に帰り、家族や親戚の人も集まってバーベキューを楽しんだり、家僕と水入らずで外食に出かけたりしている。普段は近所への散歩や喫茶店に出かけている。	積極的に外出支援に取り組んでいるが、家族アンケートから見ると、伝わっていないように思われます。面会の少ない家族にもこころが通い合う方法を見つけていくことを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていると安心される方や管理の出来る方にはお金を持ってもらっている。公衆電話代を持ちご自分で電話されたり玄関前にある自動販売機のジュースをご自分で買う楽しみを希望される方の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望した場合はその都度職員が公衆電話に付添うようにしている。手紙のご希望は今のところないが希望があれば対応していく。手紙が届くことはある。		

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護こころ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるようその時期の花を飾ったり季節に応じた作品づくりを利用者様と一緒にディスプレイしている。温度・湿度が表示される壁掛け時計にしている。テレビをつけない時は音楽をかけるようにするなど居心地の良い空間を提供出来るよう工夫している。	廊下には、楽しかった行事や外出の写真を、リビングには手作りのクリスマスツリーや紅葉の貼り絵などを飾り季節感を出している。北面は広いガラスの窓で、広がりを持たせている。好きな音楽をかけると、自然と口ずさみ和やかな雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル以外にソファを置き、自由にゆったりと利用者様が過ごせるようにしている。日々の様子から利用者同士の関係がぎくしゃくしないようにその都度職員が間に入ったりまた配置を変えたりしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に利用者様の馴染みの物を持って来て頂き、身近に置いていただく事で、安心できる空間を作り、その後も写真や本人形等好きな物を身近に置いていただき落ち着ける様にしている。仏壇や位牌、家族写真、本棚等持ち込まれ居心地良く過ごせる様工夫している。	居室は南に面しており、日当たりがよく暖かい。自宅で使い慣れた馴染みのタンスやベッド、椅子、机や本棚などを持ち込んで、家族写真も置かれている。仏壇や位牌も並べられ、安心して自分の部屋として過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには利用者様それぞれにわかりやすい様に名前を貼ったり、写真を貼ったりしている。トイレの場所や時間等随時お知らせして迷う事がないように支援している。車いすや杖歩行の方が安全に移動できるように環境整備している。		